

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	イオンリテール株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1
工場等の名称	イオンモール大高
工場等の所在地	名古屋市緑区南大高2丁目450番地
業種	卸売業、小売業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	総合小売業
計画期間	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和4年9月4日 ～ 令和4年12月3日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） イオンモール大高 1F 防災センター付近通路
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	イオンリテール株式会社 イオンモール大高事務所 TEL052-626-2900		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、エネルギー使用の合理化に関する法律による活動と合わせて事業展開を実施します。

①省エネルギー活動の推進

電気、燃料等の営業時間あたりのエネルギー使用量を毎年1%削減する努力をします。

②従業員への環境教育の推進

環境目標を全員参加で取り組みます。

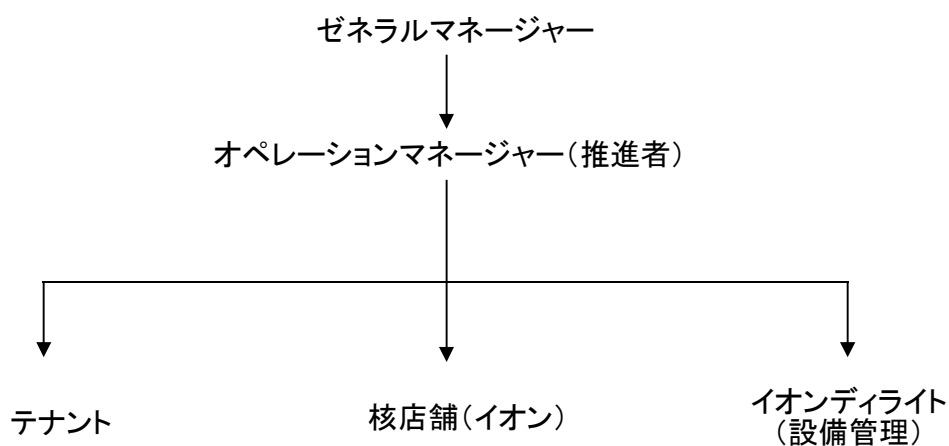
③廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進

廃棄物の抑制・適正処理を通じ省エネを目指します。

④エネルギー使用機器における適正運用の追求

感染症対策等の情勢を配慮した上で、可能な限りの省エネ運用の実施。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		10,773	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	10,773	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度			
温室効果ガス総排出量	10,593	t-CO ₂	10,275	t-CO ₂	10,773	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 1.7	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度			
原単位あたりの排出量	2228	t-CO ₂ / 千 時間	2161	t-CO ₂ / 千 時間	2108	t-CO ₂ / 千 時間		t-CO ₂ / 千 時間		t-CO ₂ / 千 時間
削減率（対 基準年度）			3.0	%	5.4	%		%		%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / 千 時間		t-CO ₂ / 千 時間		t-CO ₂ / 千 時間
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

新型コロナウイルス対策を優先しなくてはならない状況の為、これまで実施してきた省エネ対応を行うことすら難しい運用環境となっている。
（空気循環の為に空調・機械換気の稼働、出入口扉開放、その他 サーキュレーター等の運転 を実施中）
今後この環境が戻ることは考えにくく、現環境において省エネが出来るような新たな考え方や設備の導入の検討が必要と考えております。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践 点検及び運転管理の適正化	空調熱源(ターボ冷凍機)の定期的な保守・整備により、高効率運転を行う。 また、中間期・冬季は外気冷房を活用し、熱源稼働時間の短縮に努める。	空調熱源の年間使用電力量を毎年1%ずつ削減する。	・感染症対策のため外気導入を全ての期間で最大限実施しており、効率的な運転が出来ていない。
省エネルギー・省資源の行動の実践 設備運転の効率化	空調フィルター清掃・内部フィン洗浄を計画的に実施し、高効率運転を行う。 入店テナント様に対しフィルター清掃・フィン洗浄の案内を行い適正管理を促す。	共用部・核店舗の空調フィルター清掃は年6回、内部フィン洗浄は2～3年周期で実施する。	フィルター清掃やフィン洗浄については計画通り実施出来ており、今後も継続予定です。
省エネルギー・省資源の行動の実践 照明	スポットライト・間接照明・装飾照明などについて、不要な照明を消灯(間引き)する。 また、必要箇所についてもタイマー設定を見直し点灯時間の削減に努める。	タイマー設定の見直し	照明器具の故障が多く発生しており間引きなどの対策が行えず。故障原因は寿命と考えられ照明の器具更新を検討中。 (2013～2014年に多くLED化)
省エネルギー・省資源の行動の実践 照明	店内・外照明をLED器具に更新する。	共用部の全照明のLED化	2022年度にて屋外看板等のLED化を実施予定。
省エネルギー・省資源の行動の実践 設備運転の効率化	食品令ケースの清掃を計画的に実施し、高効率運転を行う。	1回/年の清掃により汚損の防止を行う。	ハニカム清掃は1回/年で継続実施中。ロードラインオーバーに対し注意喚起実施。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 3 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 3 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・夏期熱源の運転見直し（ターボ冷凍機3→2台運転での運用） ・館内照明の間引き実施 ・外部看板、内照サインのLED化 ・カーテンウォール、壁面照明のスケジュール調整（点灯短縮） ・空調機フィン洗浄などの計画通りでの実施

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

照明・空調スケジュールの見直し

